

---

# 厨二病少女物語 in,めだかボックス

箱眼鏡

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

厨二病少女物語      i n, めだかボックス

### 【Nコード】

N6078Z

### 【作者名】

箱眼鏡

### 【あらすじ】

とある厨二病少女が神に出会い（？）  
スキルを貰って原作ブレイクor傍観するお話！

ぷろろーぐ 厨二少女、呼び出す。(前書き)

連載、始めました。

ぷろろーぐ 厨二少女、呼び出す。

やあやあやあ！ はじめまして！ M i s s . 厨二こと！

『 ちゃんですっ☆

…え？ 名前が表示されてない？

………気にすんな。気にしたら負け！ o k ?

で、本題に入るが…なんか私、真っ白いところにいるんだよねえ？

うん…何でこうなったんだろう。

とりあえず、回想！

そう、それは私がとある怪しい古本屋『BOOK OFF』で…

『キツネザルでも出来る！正しい神様の呼び方（初版）』

を買った事から始まった：買う時 可哀想な人を見る目で見られたが。

でだ、家に帰ってその本を見たんだが：

———自宅

「よし、メガネ装備完了！ 熟読するぜー！」

とか言って本を読み始めたんだよ

まあ、当然の如く『神様の正しい呼び方』があつて  
試にやったんだよね、手順通りに。

「えー…つとお？」

『付属の魔方陣の描かれている蠟燭を六角形にならべ、その中心に  
立ち、

「いでよ！」と言ってから「くあwse d r f t g y ふじこ l p」を  
囃まずに10回唱える』

…くっ…！ やってやろうじゃねェか…！」

で、やったんだよね。

そしたらさ：

「いでよ！」

くあwse d r f t g y ふじこ l p

くあwse d r f t g y ふじこ l p

[illegible]

…出来たんだよ。出来ちゃったんだよ。すごくね？

んで、魔方阵が光ったと思ったら、ここに居たわけさ。

「お前が俺を呼んだんだろ？」

とか言ってる奴いるし……

...

そう思い、後ろを見たら

ものすごい美形な奴がいた。

畜生つ！

「誰だッッ！！！！！！」

「神だッッ！！！！！！」

「知らんがな！！　って神！！！！？」

「そうだよ！！　1時間位前からいたよ！

お前がいつまでたっても現実逃避してるからかなり寂しかったよ  
」！

「知らん。どうでもいい」

「どうしても……」

ていうか神イケメンだなオイ……  
まあいいか。私の願いが先だっ！

「で？　神（笑）さんよお……ていうか何時まで落ち込んでんだよ。  
鬱陶しいわ」

「誰のせいだ……で……本題に入るけど、お前の願いは転生だよな？  
っーか此処に生きたまま来る奴って中々いねえよ」

「オイ、ちょっと待てっ！！」

「ん？何だよ」

「今、お前……生きたままだったよな？  
っー事はアレか、ここに来る奴は大抵死んでんのか？」

「……………まあ…な…?」

「今の間は何だあ? オイコラ神（笑）さんよ」

「さーて! さっさとやるぞー!」

汗だらっだらやんけ…

「…まさかとは思うけどさ、その死んだ奴って…お前のミスで死んだりとかか?」

「!?!」

おお、ビクッてしたっ

「…ふうーん、へえーえ? そっかあ、そうなんだあ? W」

「う、うるさい! 俺だって、俺だってミスくらいするっつーの!」

ツンデレ…? では無いな。確実に。

「で、此処に来た奴は身元確認をしなきゃなんないから…」

「間違って死んだとかそういう事で?」

そう! 私は確信犯!

「グサツ…そうだよ…」

「自分で…」



「ゴホン、気を取り直して…名前は？ちなみに俺は菊だ」

「女子か。私は『な』」

神が分厚い本を見始めた。重くねえの？

「…お、本人だな。OK OK

で、お前の願いは転せ 「違えよ」 は？」

「私の願いは… 「ちよつと待てよ！」 ンだよ駄神」

「駄神…じゃなくて！ お前の願いは転生のはずだろ！？」

「情報古いな… あんな？ 私はある時、気づいたんだよ」

「何に」

「『あれっ？ 転生しちゃったらいろんな世界行けなくね？…』  
…という事に。」

「はあああああ?!」

「つー訳で、今の私の願いは

『あらゆる世界に行けるスキル』と『スキルを作るスキル』をくれ。」

「せこいーーーーー!!!!!!」

「うるせえな!! 私はある事を楽しみたいんだ! いいだろ!!」

「うううう…俺ってさ、お前に呼び出されただろ?」

「お? なんだいきなり」

「俺達には決まりがあって…

『呼び出された神は 呼び出した者の願いを絶対叶えなければいけない』

…って言うのがある…から」

「叶えてくれんのか?」

「…まあ…でも、お前の願いって、全時空を行き来するって言う事なんだよ」

めんどくせえ言い回ししやがって。めんどくせえ奴だな。

「叶えられるかなあ… みたいな事か」

「うん…という事で、ちよつと大神様に相談してくるわ」

「…何か納得いかねーけど…いいよ」

「おう、ちよつと待っていてくr… 『その必要はない』 …!!」

「んあ？」

誰だY… 美人さんキター… 何で神って美形多いの？  
そんなこと思っていると、神（美人）さんが口を開いた

『—————菊、テメエ何モタモタしてやがる。おお？』

「口悪っ!!」

ビックリだよ!! 何!? めっちゃ口悪い神さんキター!!  
口悪過ぎて突っ込んだじゃったよ!! もう!

「す、すみません…」

「めっちゃビビってんじゃない、チキンハートだなーお前」

「う、うるせえっ」

『オイゴラ、テメェアタシの話聞いてたか？ ん？』

「聞いてましたごめんなさい」

「弱いなお前…」

『！ お前がこの阿呆を呼び出した人間か』

「そうッス」

『ほおーん…お前の願いはー…何だっけ？  
あらゆる世界に行けるスキル…と、スキルを作るスキル…だったか？』

「え、何で知ってるんですか？！」

駄神ことお菊ちゃん（笑）が喋りだす。

『お菊ちゃん（笑）… テメェが持ってたのはコレの一個前のだ（笑）』

「お菊ちゃん！？」

「お菊ちゃん、案外ドジっ子なんだな（笑）」

『で、お前』

「へあはい！？」

いきなり呼ばれて変な返事しちゃったよ…

『お前の願い、叶えるからな』

一瞬の沈黙。そして…

「…はあっ!!?」

叫んだ。

だってビックリしちゃったんだもん☆

『ん? なんだ嫌なのか?』

「物凄く嬉し過ぎて吐きそうです」

『ははは! そうか!』

「ちよっと!! 大神様!?! いいんですか!?!」

『いいつつってんだろ? お菊ちゃん(笑)』

「そうだよ。お菊ちゃん(笑)」

「うゝ…もういいや…ハハッ…」

お菊ちゃん(笑)が落ち込み始めた。邪魔くせえな。

「つか、マジでいいんスカ?」

『いいんだよ別に。お前気に入っただし』

「よっしゃああああああああああああああっ!!」

『落ち着け!?!』

「うあっ、スンマセン…つい」

『いや、いいんだがな…』

で、『あらゆる世界に行けるスキル』と『スキルを作るスキル』はもう使えるからな』

「「いつの間に!?!」」

あ、お菊ちゃん復活した。はええな…神クオリティーかこの野郎

『企業秘密だ。…お、もうそろそろ時間だ。』

「あ、本当ですね」

「? 時間が何だよ」

『ん? お前を下に戻す時間』

「あ」

そーいや忘れてたな…

『会うのは最後になるかもしれないから、アタシの名前を覚えておく。』

「アタシの名前は紀樹だ」

「紀樹さん…okッス！ 覚えました」

『お菊ちゃん？ テメエはいいのかー？』

「あんまし言う事ないですし…」

「ンだよ冷たいなー、お菊ちゃん」

「お菊ちゃんはやめてくれっ！！」

「嫌でーす（笑）」

『じゃ、戻すぞー』

「ご愁傷様…」

「は？」

何？ ご愁傷様？





「…んゝー…？」

…知ってる天井だ… 当たり前か

「あんの野郎共…落としやがって…」

私は根に持つタイプなんだぞこの野郎。

ヒラ…

「あん？ ンだこれ…」

…手紙か…？ つか上から落ちて来たよな…

…上、天井…うわぁ、物凄い無理矢理…

「ええー…と、何々…

『おはや〇ほー！』

うた〇りか。地味にネタ使ってくるんじゃないやねえよ駄神共が。

『ういーっす！ 生きてるかー？』

生きてるわ！！ もう突っ込むのやめとこう。先に進まねえ

『ははは、言い忘れてた事があったから手紙で教えるぞ。』

まず、スキルの事。

スキルは現実では使えないからな。

あらゆる世界に行けるスキルの名前は

《ブックワールド》っつー奴に決定したから。

ブックワールドはその世界に行く時に

「ブックワールド！」って言えば行けるから

でもう一つの方は《スキルメーカー》。まんまだな（笑）

あと、原作はぶち壊しても、傍観でも何でもいい。

そっちの世界の漫画にや影響しないから。

他になんかあったっけ…？ 無理だ思い出せない。

まあこれでいいか。

p. s. おまけもやったからなー

以上。 f r o m, 紀樹 』

……………ぐっだぐだだな…！！」

ぐだぐだ…ぐだぐだ過ぎだよ！？

馬鹿じゃねえの！？ 他になんかあったけ…？ て！！  
あきらめんなよ！！！！ もう！！  
おまけってなんだ！！！！？

「まあいいや」

どこの世界に行くかはもう決まってるんだよねー  
やっぱ最初は

「めだかボックスだろ！！うあああ鷗くん可愛い可愛い…！！  
という事で！レッツ！！ブックワールド！！」

——そして私の原作ブレイクが始まった。

原作傍観するかもしれないけどね。

ぷろろーぐ 厨二少女、呼び出す。(後書き)

はい、無理矢理です。

詰め込みすぎました。切り方が分かりません。

アドバイスください：

頑張って連載します。それでは b y, 箱眼鏡

## 厨二主人公設定だッ!!

現実

名前.. 不明

性別.. 女

年齢.. 13

身長.. 162.8cm

体重.. ご「言わせるかつ!!」^p^

一人称.. (基本) 私 (たまに) あたし、俺、僕

誕生日.. 不明

性格.. 言葉で表せない性格、厨二病

容姿.. 普通な黒髪黒目

i n, めだかボックス (容姿はスキルで変えている)

——原作開始時——

名前..河那カワナツクモ 九十九

性別..女

年齢..黒神めだかと同じ年

身長..165.5cm

体重..不明

一人称..（基本）私（たまに）あたし、俺、僕

誕生日..不明

性格..言葉で表せない性格、厨二病

容姿..肩くらいのショートカットで天パ

カチューシャ、黒をいつもつけている

おまけ..あらゆる事にたいしての才能

神さん設定..

名前.. 菊（お菊ちゃん）

性別.. 男

年齢.. 不明

身長.. 169.5cm

体重.. 不明

一人称.. 俺

誕生日.. 4/4

性格.. 「さあ？ しらn「チキンだ」違う!!」

容姿.. 美形，九十九さん曰く、可愛くもあり格好良くもある

名前.. 紀樹<sup>キシユ</sup>

性別.. 女

年齢.. 不明

身長.. 175.8 cm

体重.. 不明

一人称.. アタシ

誕生日.. 12/25

性格.. 適当

容姿.. 九十九さん曰く綺麗

以上！



**厨二主人公設定だッ!! (後書き)**

設定です。

容姿はご想像におまかせっ!!

…しまーす。

**第一厨 あれっ？ 何コレどうなってんの？（前書き）**

即興で

「駄文です！ ふはW」

では

「どーぞーW」

さっきから台詞ばっか盗んないでくれる？  
後、被せるのやm「どーぞー！！」

**第一厨 あれっ？ 何コレどうなってんの？**

やぁお久しぶり！

今ね、凄いテンパってんだっ！

さっき私、『ぶつくわーるど！』 って来たじゃない？  
それで何故か

俗に母親と呼ぶべき人のお腹から出て（生まれ？）きちやった☆

ビックリだよね！ で私が更にテンパる事があるんだ！  
何かね、私

赤ちゃんになっちゃった☆

こんな事になるとか聞いてないよ!？ お菊ちゃん!

ていうかもう誰でもいいからこうなっちゃった理由を教えてください!!!

もうホント誰でもいいから教えてーーーーー!!!!

『こういう事のなくなるスキル作ったらよくね?』

って、思ったんだ。 ホントだよ?

…まあ、スキルメーカーの存在を忘れてたけど。

あ、一応言っておくけど、スキルもう作ったよ? いやまじで。

なあーんて事を考えてたら、おかーさんが

「九十九ちゃん! 入園式にいくわよ」

幼稚園、行けてさ! 個人的に幼稚園は黒歴史量産所だと思う!!

「つ・く・も・ちゃん! 早くおいで」

畜生! 行かないわけにもいかないから行くよもう!  
行けばいいんでしょ! 行けばあああ! (ヤケクソ)

「九十九ちゃん！」

「はぁー！ーい！」

畜生…行きたくねえな…  
とか考えながら靴を履いてたら

「あら、九十九ちゃん、もう一人でくっく履けるのねえ」

履けるわ！！ 普通履けるだろ！？

「じゃあ、行きましようか」

「うん」

心の中でツツコミながら歩いていた  
まじ天然乙…

「ついたわよ」

「はやあ！！？」

もう着いたの！？ 早くね！？

って、ヤベツ…

「どうしたの？ 九十九ちゃん」

「う、ううん！ ナンデモナイヨ！？」

馬鹿！！ 何故そこで焦る！！

「あら～そうなの～」

ナイス！！ 天然ナイス！！ 初めてこの人に感謝した！！

『入園式が始まります、親御さんは—————』

「！ 始まるみたいね～ 行きましようか～」

『これにて、○○幼稚園第35回入園式を終わります—————』

「やっと… 終わった…」

次はあーっとおー…？

「クラス見に行くわよ～♪」

クラスかッッ！！！！ めんどくさッ！！

…まあ、行くか…

——ひよこ組

ひよこて！！

0歳位はあれか！ たまごか！？

「どんな子が居るのかしらね？」

「優しい子だといいなあ…」

私、人見知り激しいのよ… まじで…

「失礼します」

相変わらずのおっとりした口調でそう言い、  
私とおかーさんが教室に入ったら

「あら？ 川那さん！」

美人な親御さんがおかーさんに話しかけてきた

……誰っすか？

「あら～！ 不知火さ～ん！」  
シラスイ



…え？

し

ら

ぬ

い

で

す

と

！

？

## 第一厨 あれっ？ 何コレどうなってんの？（後書き）

短かったですねー

不知火さん気になりますね

「気になるどころじゃねえだろ！？」

あ、九十九さん

…まだ居たんですか？

「お前が一話投稿することにてきてやる！！」

どうでもいいですが、最終的にこのコーナーあとがき任せますよ？

「まじかよ！！？」

まじです。

では次回よこk

「次回予告！

不知火との出会い！ そして人外と殺人衝動との邂逅！

次回！

「不知火？ あんしんいんさん？ 殺人衝動？ ンなモン知るかっ  
！！！」

乞うご期待！！」

…予告通りに出来るかなあ…

「まあ…ガンバ」

**第二厨 不知火？ あんしんいんさん？ 殺人衝動？ ンなモン知るかッ！！**

れんぞくとうこうでふゝpゝ

**第二厨 不知火？ あんしんいんさん？ 殺人衝動？ ンなモン知るかッ！！**

や、やあ！ 唯今二度目のテンパリ中！ 九十九ちゃんだよっ？

うん？ え？ しらぬい？ 不知火ってきゅぽきゅぽ（？）してる

あの、不知火？

落ち着こう、自分、一回落ち着けー？

…… 無理だ！！

いやだって、え？ 不知火って母親いたの？

…いや、普通居るわ。お、おお、大丈夫かな？ 私？

お、お母さん！！ と思ったら不知火母（仮）と

「九十九ちゃん大きくなったわね」

「そうですか？」

等と駄弁っていた。

若干呆然と立ちすくんでいたら

「あひゃひゃ！」

と、聞こえた。

： A h y a h y a ？

「何ぼっと突っ立てんの？ あひゃひゃ！」

「うおうっ!？」

…ビックリしたー…

「？ 何？ どしたの？」

「うえっ？ あ、いや、ちょっとビックリしちゃって」

「あひゃひゃ！ なるほどね！ あたしは不知火半袖だよ！」

「あ、私は川那九十九… よ、よろしく？」

「ぎもんぶんなんだ？」

「うッ… 人見知りだし…ねえ？」

「！ あらゝ、半袖ちゃんゝ久しぶりねゝ」

おかーさんが不知火（娘）に話しかけた  
え？ 知り合いですか？

「あひゃひゃ！ そうですね」

ガラッ

扉を開けて先生（？）が入ってきた。

長い奴が始まりそうだあ…

「えゝ、入園おめでとうございます――――――――――」  
――――――――――

「ではこれで終わります、明日からよろしく願いますね」

「」「」「はーい」「」「」

「はい…」

ヤベエ… 物凄く来たくない…!!

「あひゃひゃ、明日からよろしくね☆」

「あ…うん…」

その会話を最後に、その日は別れた。

―――  
帰り道  
―――

「あっ」

おかーさんが何かを思い出したように小さく呟いた。

「お醤油買わなきゃ…」

醤油かよ…

「九十九ちゃん、ちょっとスーパー寄ってもいいかしら？」

「うん、いいよー」



「ありがとう、九十九ちゃんはいいい子ね」

そしてスーパーへ：　と思っただけどさあ：  
公園が見えちゃったんだよね：

休みたい私はおかーさんに

「おかーさん、あそこの公園で休んでもいい？」

って言っちゃった☆

まあ、普通は駄目とか言われるけどウチは：

「あら、いいけど：知らない人についていたら駄目よ？」

親が天然だから。

「分かってるよ、じゃあ待ってるから」

「はいはい」

で、公園。

「きゃははは」

「待て！」

微笑ましいなあ…

ってブランコに乗りながら子供達を微笑ましい表情で見ているなら

「おや？ 一人でどうしたんだい？」

知らないおねいさんに話しかけられました。

ってか、安心院さん！！？

何故ここに… スーパーの袋を持って…？

「どうかした？」

「あ、いえ…」

何故に？ 何故にここに居るの？

「…」

「う…あ、ええつと…」

沈黙されたッ…！！

キ、キツイ…！

「…ねえ」

「へはいっ!?!」

うわあああああああああ!!!

死にたいいいいいいい!!!

何だよ『へはいっ!?!』てえええ!!!

私は『どこの子?』みたいな事を聞かれるんだろうな

とか思っていたが、

安心m: あんしんいんさんの口から出た言葉は予想外なものだった。

「君、何者?」

「...は...?」

「君が生れた事は知ってたけど、  
ここまでの異常だなんて聞いて無いよ？」  
アフノーマル

何を言っているんだろうか、この人は。  
確かに私はスキル持ちだが：

『ここまでの異常だなんて聞いて無い』？  
アフノーマル

誰が、私の事を、この人に教えた？  
じんがい  
誰が 教えた？

：面倒臭い事になってきた：

私はそう考えながら喋り始めた：  
私が作ったスキル、詐欺師の仮面ポーカーフェイスを発動させながら。

「：おねいさん、何を言っているんですか？

あぶのーまるって何ですか？」

…この人<sup>じんがい</sup>に効く<sup>きく</sup>といいが…

「……僕は——」「九十九ちゃん！」 チツ…」

オイオイ、舌打ちしたよこの人…

「あらゝ、貴女はゝ？」

「この子、一人じゃ危ないと思ったんです。  
だから少しでも貴女が来るまで一緒に居たんですよ」

「あらゝありがとうございます？」

「いえいえ、では僕は失礼します…  
バイバイ、九十九ちゃん」

「…はい」

あんしんいんさんは帰って行った。

「じゃあ帰りましょうかゝ」

「あ、うん…」

私は直感した。

『あの人は、じんがい近いうち…また現れる』

…と。

**第二厨 不知火？ あんしんいんさん？ 殺人衝動？ ンなモン知るかッ！！**

疲れたです。

「結局、Mr. 殺人衝動は出てこなかったな」

だって宗像君入れると物凄い長くなると思って…

「…まあ、確かに」

不知火の口調が分からない…

「そこらへんが今後の課題だよな」

うん… 次回予告の気力がないから後、宜しく…

「おうよッ！

次回予告！

（やっと）殺人衝動との邂逅！

そして私は自分の異常さを（若干）自覚！

次回！

「殺人衝動と厨二少女の邂逅！」

乞うご期待！  
つか誰が幼女だ！！」



### 第三厨 殺人衝動と厨二幼女の邂逅！（前書き）

僕、もう疲れちゃったよ…

「どしたよ」

お…

「お？」

おもいつかない！！

「えー、どうすんだよ」

ふは… どうしよう

「ま、頑張れ」

僕、頑張るよ… パトラッシュ。

「私は犬か!？」

…そういえば九十九さんが3歳の時って…  
宗像君、5歳？

「…？ さあ？」

…誰か教えてください



### 第三厨 殺人衝動と厨二少女の邂逅！

ういす、唯今絶賛暇暇な九十九ちゃんだよー☆

今日は幼稚園（笑）は休みなのさっ！ だから

だりいです。暇です。

状態になっちゃった☆という事で唯今公園に来ているんでございますよ

公園に来たのはいいんですけどねー

なんか物凄く異常な雰囲気の子がブランコの所にいるんでせうが

どうしたらいいの？

九十九ちゃんチキンだからわからない。

まあ、とりあえず話しかけてみYO！

「あの…」

「！…」

ち、沈…黙…！

中々手強い奴だ…！

「あー… な、何してるの？」

「……」

うわああああああああああ  
何にも喋ってくんない！ どうしよう！

「…あの子達を見てるんだ」

「はへ？」

喋った… 失礼か。

「……」

「あ、そ、そうなんだ…」

あああああ！！ 自分馬鹿あああっ！！

折角話してくれたのにっ!!  
もう!!

「……………」

…沈黙…辛過ぎて死にそうでふ…

くっ!! こうなったら私の雑魚い会話能力で意地でも会話してやんぜっ!

と、とりあえず名前を…!

「え…と、あなたの名前は?」

「……………かた…」

「え?」

「宗像…形……………」

「……」

宗像？ 宗像って言いました？

まさかの原作組… 宗像形ですか！！？

「…君は？」

「うえっ？ わ、私は、川那九十九…です？」

「ふうん…」

何だよ！ 自分から聞いたくせにっ！  
だがそこもイイ！ 宗像君は私のランキング2位なんだっ！

「宗像君は何でここにいるの？」

「お母さんのともだちに会いにきたんだ」

「へえ… いつまでここにいるの？」

ちょっと好奇心で聞いてみた

「…いっしゅうかん」

「いっしゅうかん… て事は明日もいる？」

「まあ…」

「じゃ、明日から遊ぼう！」

今自分でも思った事があるよ。

『唐突だな… 自分』

って… okしてくれるわけないよねー

「…いいけど」

ほら、だm…

「いいの!？」

いいのかよ!？ 突然話しかけてきた奴だぞ!？  
まあでもいいんだ! よっしやっ!!

「きみから聞いてきたじゃないか…」

「あ、それもそうだ。

ていうか本当にあそんでくれるの!？」

「う、うん…」

あ、ヤベッ

宗像君引いてるわ。ドン引きかな？

「ごめん、ごめん… ちょっと何か憑いちゃったみたい」

「憑く…？」

文字ネタがわかるとは！  
宗像形、侮り難し！

「ナンデモナイヨー。えへへー」

「…そう… ならいいけど…」

「じゃあ、そろそろ帰らなきゃ！  
またあした、ねー！」

「…うん、またあした」

と言い、その日は別れた。

…『またあした』って言ったとき、なあーんか笑ってたような…？



…まあいいか。

———宗像視点———

へんな子だったな…

かわなつくも…だっけ

……ひょうじょうがコロコロ変わるし

見てておもしろかったな… あれは…

…でも、あの子…

なんか、僕と似ているような気がする

…そんなわけないか…

### 第三厨 殺人衝動と厨二幼女の邂逅！（後書き）

…ふひはは

「私が自分の異常さを（若干）自覚するの、今回じゃなかったな」  
「いわないでくださいよ！ もう！

「あはは、ごめんごめん。

悪気はあったんだ☆ 物凄く」

鬼畜！ ドS！ 鬼！

「h a h a h a ! 褒め言葉だよ！」

畜生め…

「ていうか三点リーダー使いすぎじゃね？

あと短い」

そう言う事言わないの！！  
頑張ったんですよ私も！

「…嘘くさっ」

九十九さん酷い  
次回こそは頑張るですよ…

では次k…

「次回予告！」

宗像君と私が遊んだりして仲良くなって

宗像君が自分の異常さを語りだす！

そして私は（やっと）異常さを（若干）自覚！

次回！

「普通？ 異常？ そんなのどうでもいい！！」

乞うご期待！」

…次こそは、予告通りに…っ！

**第四厨 普通？ 異常？ そんなのどうでもいい！！（前書き）**

ふははひ

「またか」

あら九十九さん

「口調おかしくね？」

だって、物凄く驚く事があったんですよ？  
おかしくなるのなんて…当たり前じゃないですかっ

「何があった？」

アクセス数がねー

「アクセス数が？」

…1200hitだったんですよ

「まじかよ！！？ すごいな！」

本当ですよ。私なんてこの連載始めた時  
『そんな見ないよなー、あはは』  
とか思ってたのに。

「えー…」

気を取り直して、1200hit有難う御座います

「ますっ!」

これから頑張るですよー

ではどうぞー

**第四厨 普通？ 異常？ そんなのどうでもいい！！**

やあやあっ！ 幼稚園が終わった九十九ちゃんだよっ！

不知火とか不知火とか不知火とかがすごい可愛かった九十九ちゃんだよっ！

…ゴホン、失礼！

今から宗像君と遊ぶからテンソン上がっちゃってっ、てへぺろ☆

ちなみに私は今公園に向かっているよ！

いやー宗像君と遊べるとはねーもう死んでもいいよ…

…いや駄目だろ。駄目だもう、宗像君と遊べるのが嬉し過ぎて色々おかしいよ私

お、公園に着いたようだよ

誰に向かって話してんだろうね？ …まさか宇宙人！？  
いやそんな事は無い…といいなあっ

てか宗像君どk…

「…何してるの？」

「うにゃああああああああっ!？」

うしろだと!?

ビククリしてへんな猫みたいな感じなっちゃったよっ!

「…ねこ？」

「む、むなかくん… ビククリしちゃったよ、もう…」

いやもうホントビククリしたわ

「…ごめん」

「今の間は何でせうか?! そしてなぜ若干笑いをこらえて!？」

「…遊ぶんじゃないの？」

「あ、そうそう! 遊ぶんだっ!」

…ん? なんか話そらされた?



…よくわからん！　まあいいか！

「よし！　何して遊ぶ！？」

「決めてなかったんだ…」

そこはご愛嬌で。

この日はブランコ乗ったり、ぼーっとしたり、そこらの子供と遊んだり

それでもう夕方なんだよねー…

「時間経つのはやいねー」

「おばあちゃんみたいなこと言うのやめてくれるかな？」

「えへへ、つい」

「…そろそろ帰らなくていいの？」

「うわおっ！ 忘れてたっ！

じゃー形君、またあしたっ！ ばあいつ！」

あ、遊んでる時にね、名前でいいって言われたのよねー  
可愛かったよ、照れてたからっ

「…うん、またあした九十九ちゃん」

かわい い ！ ！

そして名前ッ！！ うれしす！ ふはっ！

そんで次の日も

形君が背後から来たり

その次の日も

真横に形君が居たり

…色々と楽しかったですぜっ！ ビックリしたけどね！

で、もう遊べるのが最後の日…

…時間経つってホントはやいよね

ちなみに今はシャボン玉やって遊んでるっ！  
楽しいね！ シャボン玉！ パンってねっ！

「おおおっ…！ わ、わりたい…！」

「わってもいいと思うよ…？」

「な、なんですとうっ！？ わ、わってもよろしいので…！」

「い、いいけど」

「やったー」

ん？ 形君？ 何故にその様な微笑ましい表情なんだい？

とか思ってるけど、形君が吹いてくれるシャボン玉わってる私！  
矛盾？ 矛盾？

私がシャボン玉わっていると、形君が

「…ねえ、九十九ちゃん」

「ほい？」

「…ちょっと話してもいいかな？」

と、言った。

私は若干不思議に思ったが

「…いいよー」

と気の抜ける返事をした、テヘ☆

形君が口を小さく開いた、そしてこう言った

「…僕は、人を見ると『殺したく』なるんだ。殺したく無いのに。」

「……………」

私は少し驚いた

けいくん アブノーマル  
自分の異常の事を話したんだから

「…殺したくなるの？」

「うん、とっても」

「…ふうん… そうなんだ」

私は、形君の次の言葉に一番驚いた

「…九十九ちゃん、きみも、僕と同じなんじゃないのかい？」

形君が、そう言ったから。

でも何故か私は冷静だった

「…なんで、そう思ったの？」

私はそう形君に聞いた

「…なんとなく、そう思ったから。」

「…そっか」

「…九十九ちゃん、僕の事、怖がらないの？」

「え？　なんで？」

って言ったら、形君は鳩が豆鉄砲を喰らった様な顔をした

何故に怖がるの？

「え、殺したくなるんだよ？　ふつうは…」

「…私は普通だけど、形君のそれは才能みたいな物だよ？　多分」

「さいのう…？」

「さいのう？　ん？　才能…だと思っうよ？？　私は」

って言ったら、形君は少し安心したような顔をした  
ああもう可愛いなこの野郎ッ！

「…そっか」

「？ うん」

「あ… もうこんな時間」

「ああっ！ ホントだ！」

「…じゃ、今日でお別れだね」

「うん、でも、まだどこかで会うかもねっ！」

「そう…かも、ね」

「じゃ！ またね！」

「！ …うん、またね」

私たちは別れを言い、互いに帰って行った。

私は帰り道で色々考えていた、異常な事とかね！

「…んーんーんー、私、やっぱり異常なんだかねー…？」

…まあ、少しは、異常かもね」

「…あー、今日のご飯は何だろうなあ」

最終的に晩ご飯の事にいったが。



**第四厨 普通？ 異常？ そんなのどうでもいい！！（後書き）**

無理矢理詰めちゃった…

「だな」

まあ… 九十九さんも若干自覚したようだし…  
いいか。

「いいのかよ!？」

いいんですよ別に。

さて、他に書くこともないし。

九十九さん、よろしくお願いします。

「あいーっ！ 次回予告！

遂に私は黒歴史量産所ようちえんを卒業！

他はよく分からない！

次回！

「黒歴史量産所なんぞ滅べ!!」

一応、ご期待!」

ふはは… 辛いよ



## 第五厨 黒歴史量産所なんぞ滅べ!! (前書き)

どうも、思いつきました(?)  
短くなりそうでふ!

ではどぞー

「の、前に」

何ですか…

「嫌そうな顔すな。」

お前さ、私の幼稚園時代書いてる時

自分の時おもいださ」

はじまりです!!!!!!!!!!

## 第五厨 黒歴史量産所なんぞ滅べ!!

どうも、M r. 殺人衝動こと宗像形に出会ってから三年が経ちました!

：ハイイ? そんなこと言わないで!

この三年間は不知火とか不知火とか不知火とかと遊んでばっかだったの!

しかも不知火(怒らせて)喰われかけたし! 怖っ! トラウマものだよ!!

しらn: 半袖と仲良くなったけどね

名前呼んでいいって! ひゃほう! テラうれしす!

そして皆さん(?)に重大なお知らせ!!

今日! 私は!!

黒歴史量産所、もとい幼稚園を卒園します!!

yesッッ!! やっと! S O ☆ T U ☆ E ☆ N ☆ だぜ!!

ぴゃあああああああああああp^

…ハッ! 失礼、我を忘れていた

で、今卒園式が終わったよ

もう? とか言わないでくれよ?

心の中で独り言を思っていたら

「あひゃひゃ! なにしてんの?」

「あいっ!? …なんだ半袖か… ビックリさせないでよっ!」

そう言うど、半袖はきゅぽきゅぽしながら

「あひゃひゃ！ ごめんね九十九♪」

と、言った

…名前…ッ！ 嬉しいよ…！

…そういや形君の時もこんな事あったな

ハッ！ これがデジャヴという奴か！

成程！

「九十九？」

「あ、ごめん。何？」

「あたしはもう帰るけど、また遊びに来なよ♪」

「うん、ありがとうね」

「んじゃバイバイ☆」

「ばぁーい」

そして別れた。

…あっさりしたお別れでした（・ω・）

「九十九ちゃん！ 帰りましょうか」

「はーいっ」

…さてと、私も帰るかねー

形君どっかにいないかなー…

## 第五厨 黒歴史量産所なんぞ滅べ!! (後書き)

はい、短いですねー

「だねえ」

次回から九十九さんの小学校時代の始まりですよ

「お、まじか」

原作組の住んでいる所とか、卒業した小学校が分かんないので  
適当につくります。

「それでいいのか？」

いいんですよ。

世の中適当にやっていたら何とかかなりますから。

「駄目人間!!」

人間は遅かれ早かれ駄目に成る様に出来てるんです。  
では九十九さん、次回予告を!

「へいへい、次回予告!

私が小学校に入学!

其処でまたしても原作組に出会う!



そして（忘れられていた）人外が現れる！

次回！

「私と入学と原作組と！+α」

乞うご期待！」

頑張るですよー

## 第六厨 私と入学と原作組と！＋α（前書き）

浮！ 巡！ サテイスファクション！！！！

「何だぁ！？」

いやですね、秋○音さんの浮巡サテイスファクションを聞いてるんですよ。

いいですね。秋○音さん。

「あ、そう…」

さて、テンションも上がった事ですし  
本編どうぞー

「どうぞー！」

## 第六厨 私と入学と原作組と！+a

HEY！ 九十九だぜ！

今日は何か入学式らしいんだぜ！ 嫌だな！ ショウガツコウ！

HAHAHAHA！ もう嫌ああああああああっ！！

…ふう、ちよつとスツキリ

で、もうホント長いんで飛ばす！！

キーングクリムゾンツツ！！

って、使えるっけ？ まあいいか。

さて、入学式も終わった

後は… クラスかあ…  
メンドクサイ…

「九十九ちゃん、行きましようね」

おかーさん、久々の登場ですね…

「あー、うん」

ダリイ… ツツ…!

―――教室だZE☆―――

おー… 懐かしや教室…  
ここに来る前はちょうど中学入学したばかりだったからな

「しつれーしまーす…」

おお、人だらけ子供だらけ…

…当たり前だよ、最近大丈夫か、私！

教室の扉の前で突っ立てると

茶髪のちびっ子… まあ私もただけだね？ …とぶつかつた。

「わっ！」

「わお」

「いてて… ごめんね？」

「あ、別に怪我してないし… 君こそ大丈夫？」

「あ、うん」

…んー？

この男の子どっかで見たような…？

「む、善吉、何をしている？」

「あ、めだかちゃん！」

…ぜんきち…？ めだか…？

「この子にぶつかっちゃって」

「そうか、おい貴様」

「え？ あ、何？」

「善吉がすまなかったな。私の名前は黒神めだかだめだかちゃんと呼ぶがよい！」

「え、あー…うん」

えー…？ この子完全にめだかちゃんじゃーん…

まじかよ！！

…ん？ じゃあこっちの子は…まさか

「ぼくは人吉善吉だよ！ きみは？」

善吉キタ――！！  
ちっちえ――！！

「？ ねえ」

「あ、うん？」

「きみのなまえは？」

「あー、私は川那九十九だよ。

よろしくね、善吉君にめだかちゃん」

「よろしくね！ つくもちゃん！」

「よろしくな、九十九」

「うん」

で、色々あってその日は別れた。

―――――帰り道ッ！―――――

私はめだかちゃん& a m p; 善吉君の事を  
おかーさんに話していた。

「今日ね、めだかちゃんと善吉君っていう子と  
友達になったんだよ」

「もうお友達が出来たの？　すごいわね」

たまあーにイラッと来るんだよね…

この喋り方…

とか色々話していると

「今日は九十九ちゃんが入学したお祝いに  
ケーキ買いに行きましょうか」

と、おかーさんが言った。

たかが入学で！！？

と思ったが言わなかった。  
だってケーキ食べたかったんだもん☆

そしてシャト〇ーゼ。

…妙に細かいよね、とか言っちゃ駄目だよ？

「九十九ちゃんは何がいいのかしら？」

「チョコレートケーキッ！」



「あら〜そう〜　じゃあチョコレートケーキにしましょうね」

おかーさんがお会計しにいった。

私はチョコレート見てたけどね？

：私がテンション上げながらチョコを見ていたら

「やあ、久しぶりだね」

と、肩を叩かれた。

後ろに振り向くと

あんしんいんさんが居た。

…ケーキの箱を持って。

## 第六厨 私と入学と原作組と！＋a（後書き）

はい、切っちゃいました☆

「まさかあんしんいんさんが

シャト〇ーゼに居るとはね…」

多分安心院さんもケーキ食べたかったんでしょう。  
そう言う事言わないであげてください。

「まあー…」

では次回予告ーっ！

「あいよーっ、次回予告ー

まさかのシャト〇ーゼにあんしんいんさんが！

そのあんしんいんさんの登場で私のテンションは急降下！

次回！

「私とあんしんいんさんとぶっ壊しッツ！！」

乞うご期待ー」

何時になくやる気の無い九十九さんでしたー

…次回、27日位になりそうです。申し訳ないです



**第七厨 私とあんしんいんさんとぶっ壊しッッ!! (前書き)**

はい、お久しぶりです

「ホントだな」

…忙しかったですよ。かなり

今日は髪切りに行ったし…

切るのに35分かかるって、何、私

「天パと言うか、寝癖と言うか…」

ふはは、仕方ない。

そう、仕方ない事なのですよ…

「おい…現実逃避なのかソレは？」

まあいいか。第七厨始まるYO!」

ウザいですねー…

## 第七厨 私とあんしんいんさんとぶっ壊しッッ!!

えー、皆さんにお聞きしたい事があるんですが…

突然、『やあ、久しぶりだね』とか言われたらどうしますか？

私はまず固まりますね。ハイ…

…っっか何？ なに？ 何なんですかあんしんいんさん!!

ストーカーかよ!! もう！ 怖いわ!!

…スマソッp^ ちょっとね、あんしんいんさんがね、うふふ

分からない方は前の話を見てネ☆

「なんで僕の顔を見てそんなに嫌そうな顔をするのかな？」

「純粹にあなたが苦手だからです。」

あんしんいんさんとかもう嫌でふッp^

「…にしても本当に久しぶりだね、九十九ちゃん」

「私とあなたはいつからお友達（笑）になったんですか…」

「三年前位から」

なった覚えが無えんだけど。

「ははは、相変わらず面白いね」

「さいですか…」

ヤバイよー、私のテンソンが駄々下がりだよー…  
私のアイデンティティーが消えるううううう！！

「で… あん…… あなたは何しに来やが…… 来たんですか？」

ヤベエヤベエ、口調が

「素のままでいいけどね。うん、僕はただケーキが食べたかっただけだよ。」

「ババアの癖に女子高生気取りっすかー（棒読み）若作りは大変だあー（棒読み）」

「君口悪いね。後、誰が婆だって？」

「何でもねエッス。」

ぴゃあああああああああゝpゝ

あんしんいんさんワロスww 無視してればいいのに反応するとか  
www

もうホント駄目ポ！ww ふひやはははwww

…あ、ヤベッ。私の素が出てきた…

「……九十九ちゃんさ」

「はん？」

「態度悪いね… 九十九ちゃん、箱庭学園って知ってる？」

何だこの人、唐突だな。

「知ってますけど」

…もう何かメンドクサイわ。全部喋ったろ。

「箱庭学園でアレっすよねー、全校生徒を犠牲にして『天才』を作  
ろうとしてる

…まあ、実験場みたいな所っすよねー？」



「!!」

おーおー、人外バケモンが驚いちゃって、まあ  
ははは、笑える。

「…何で知ってるのかな?」

「あはは、何でっすかねー? まあ十三組サートイン・パーティーの十三人とか  
物凄いネーミングセンスですね私ビックリしちゃったー(棒読み)

「なんで、そこまで…!」

「ははは、あんしんいんさんも大変っすねー、自らスカウトとか  
まあでも流石、箱庭学園創設者にしてフラスコ計画の立案者!  
そして平等なだけの人外!

はは、流石流石! 7932兆1354億4152万3222個  
の異常性と4925兆9165億2611万643個の過負荷  
合わせて1京2858兆519億6763万3865個のスキル  
を持つ人外! 面白い面白い! …あれえ?

そういえば不知火半纏さんが居ませんねーどうかしたんですかー  
? 半纏さん。

これじゃあ『僕』を七億人連れて来ても私には勝てないっすよー  
あはは」

「ツツ……!!!!?」

ふは、ビックリしてるー。

…ははは、何つーかまあ…

「化け物が人間みてえに驚いてんじゃねえよ。」

気持ち悪い、そう言ったらあんしんいんさんは絶望に満ちたような顔をした。

ははは、人外を自称してる癖にメンタル弱いなー、くっだらねえー

…あ、おかーさん、会計終わったっばいなー。

この自称人外は呆然としてるし… 行くか

「サヨウナラ安心院なじみ、できれば二度と私の前に現れないでくれると嬉しいな。」

…あ、後ー、私はあんなフラスコ何かに収まるほど…小さい存在じゃ無いからね。」

と、私は言い、母親と共に店を出た。

…帰り道、私は母親に色々聞かれたが適当に誤魔化した。

…にしても、あの自称人外… つまらねえ女だったなー…  
アレで自称最強？ はは… つまらねえ、つまらねえ。自分以外は  
全員平等にカスとか。  
驕りが過ぎるぜ。あの女。殺したい所だったけど…原作に影響する  
しね…

ああーあ… どうせまた現れるんだろうなあ。

…まあ、そんな時までには色々直っていればいいけどね…

———安心院なじみ視点———

…何だよ…あの子…!!

『人間みたいに』？

僕が、あんなカス共と同じだって？

ふざけるなよ…!! 川那九十九…!

僕は必ず君をフラスコ計画に入れてみせるからね

待ってなよ、九十九…

**第七厨 私とあんしんいんさんとぶっ壊しッ！！（後書き）**

…九十九さん毒舌ですねー

「仕方ねえだろ？」

この性格の元はお前何だし。

毒舌なのは当たり前だろ？」

ちよっ！ 私が毒舌みたいな言い方しないでくださいよ！！  
私は毒舌では無————…い…筈です…！

「毒舌だって…

だって昨日も普通に『いいよ別に、どうでも。』って言ってたじ  
ゃん…」

仕方ないじゃないですか… 鬱陶しかったんですよ…

「めっちゃ傷ついてたぞアイツ」

いいんですよ、どうせ忘れてます。

さて、ここら辺で次回予告！

「いいのかよ… 次回予告！

めだかちゃんやら善吉君やらとほのぼのしてるだけ！

(多分) そんなに重要な事は無い!

次回!

「私の日常! 読み飛ばし可!」

あんまり期待しなくてもいいです!

です。

## 第八厨 私の日常！ 読み飛ばし可！（前書き）

お久しぶりです

「あけましておめでとうござーやすう」

ダレてますねえ…

「正月くらいはいいじゃんよ…」

こたつでぬくぬくしないでください。

…九十九さんのやる気がないので、パパッと始めたいと思います。

あ、後、私のやる気も無いので、一気に  
6年生まで飛びます。てへぺろ★

**第八厨 私の日常！ 読み飛ばし可！**

――川那九十九（主人公）の日常

〇〇月15日火曜日

A  
M 6..  
00 起床

A  
M 6..  
20 母親&a m p.;父親と朝食

A  
M 6..  
35 支度、着替え

A  
M 6..  
45 学校へ



A M 7 .. 0 0 到着、委員会活動 ・ 九十九さんは美化委員長

A M 7 .. 4 5 朝の会

A M 8 .. 0 0 読書

A M 8 .. 1 0 授業開始

ちなみに午前授業は

1時間目 国語

2時間目 算数

3時間目 美術

4時間目 総合授業

です。

P M 1 1 .. 5 5 授業終了

P  
M  
1  
5  
..  
3  
0  
帰りの会

P  
M  
1  
5  
..  
1  
0  
授業終了

6時間目  
音楽

5時間目  
理科

午後授業は

P  
M  
1  
3  
..  
0  
0  
授業

P  
M  
1  
2  
..  
4  
5  
清掃

P  
M  
1  
2  
..  
2  
5  
昼休み

P  
M  
1  
2  
..  
1  
0  
昼食

P  
M 15..  
40 放課後

P  
M 15..  
45 委員長会議

P  
M 16..  
15 委員長会議終了

P  
M 16..  
30 帰宅

P  
M 18..  
30 夕食

九十九さんは基礎能力を上昇させる為に何かしらやっています。

P  
M 20..  
00 お風呂

P M 20..45 宿題

P M 21..30 就寝

———川那九十九（主人公）の日常、終了

九「これが私の一日です」

善「きっちりしてる…」

め「きっちりしている事は良い事だ！　ほうb…」

九・善「「やめて！……！！！」」

め「何故嫌がるのだ：（シユン」

九「シユンとしても駄目なモンは駄目」

## 第八厨 私の日常！ 読み飛ばし可！（後書き）

書き方が分からなかったです。

「つか委員長会議が長い」

そういえば、九十九さんは児童会長もやっているらしいですね。

「タリイ」

そう言う事言わずに。まあいいですが…

あ、これを見てくれている皆様に結構重要なお知らせです。

「どうした？」

えー、私の残念な脳味噌ではスキルや、スキルの名前等が思いつきません。

なので

『仕方ない、私（俺）の考えた奴をやろうじゃないか。』

と言う方はバシバシ送ってください。本当に。

いつでもお待ちしております。

「キリのいいところで次回予告。

物凄い飛んで小学生時代終了！

次回！

「小学生の次は…!？」

乞うご期待！」

では、今年も宜しくお願いします。

## 第九厨 小学生の次は……!?(前書き)

この話で九十九さんに大事件が。

「ええええええええ!?!? ……って感じだったよ……」

大した事件でもないですけどね?  
ではどぞっ

「大した事件だぞ。私にとっては!」

そですか……?



**第九厨 小学生の次は……！？**

きやつほー(へ△へ)ノシ 九十九ちゃんदैーすッ☆

今日は、小学校の1：

卒業式なのでーっす！

やったあああああああああつ！！！！！！

はい！  
 と言うわけで私卒業するよ！

いいね！  
もう委員長とか児童会長とかやなくていいんだって！

テラ嬉しす！ ひゃつはああああああ！！ 最高にハイって奴  
だぜええええええ！！

えへへ、でもね、なぜか、卒業の言葉？　って言うの？  
を、言わなきゃ駄目なんだってっ！　死ぬわ！！

私のチキンハートなめんなよこの野郎共めがあああああああっ  
！！

もう嫌ああああああああっ！！　穴があったら入りたいって奴  
ですね！  
今ならその気持ちわかるよ！　ええ、わかりますって奴だぜっ！！

『卒業生代表、川那九十九さん』

「はい」

呼ばれた…　行きたくない…　けどこの足は前へ進んでいるっ！  
考えてることやってている事ってたまに矛盾するよね！

じゃあ、逝って来ます★

壇上と言う名の戦地へ…

「――卒業生代表、川那九十九」

[illegible]

私は戦場から帰還したッ！！ 拍手浴びるっていいね！  
でももう二度とやらん！！ 誰がやるかッ！！！！

『卒業生、起立。在校生、起立。』

いっぺんに言えよめんどくせえ教頭ハゲだなあ、もう！

『これにて、第〇〇回卒業式を終了します。礼。』

やっと帰れるうー☆ とか思った自分馬鹿だ、まさか……

「先輩、行かないでよ」

「ふえええん」

こんな事になるなんてッ…！

「あらあら…」

さすがのおかーさんもビックリしてるぜ…  
私もビックリしたけどな!?

だって帰ろうと思ったら後輩達（主に委員会とか、児童会とかの）が

「行かないでください」

てな具合に泣いてんだぜ？ 滅茶苦茶ビクッたわ！  
…つか早く帰りてえんだが。どうしたらいいの…？

「皆、また会えるから、先輩困らせちゃ駄目でしょ？」

「だって晶<sup>あき</sup>あ…」

「だってじゃ無いっての…」

この子は… あ。

「晶ちゃん」

「どもっす、先輩。卒業おめでとうございます」

今年で六年になる、紙守晶<sup>かみもりあきら</sup>ちゃんじゃないか。  
よく分からなかったよ… 大丈夫か、私。あれ？ 何これデジャヴ？

「先輩？」

「うにゃ？ あ、ごめんごめん。ありがとね」

「猫っすか…？」

「あはは、たまにこうなるんだ」

この子、ちょっとだけ私に似てんだよねえ…  
私と違ってめっちゃいい子だな！

「九十九ちゃん、そろそろ行きましようか」

「あ、うん。つつー訳でまた仕事ぶりを見に来るからね」

これ言っとけば大丈夫だろ… 多分。

「うう… 絶対ですよ？」

「私が嘔吐くとしても？」

「たまにめっちゃ性質タチ悪い嘔吐きますよね」

ぬうう… 彼奴、中々やりよる…

「まあまあまあまあまあ、それはちょっとしたオフザケだよ」

って言っというた。

そしたら、性質ワリイって言われた。先輩悲しいっ！  
その後ちよっと駄弁ってた。

で、もう帰る時間。

「じゃあ、またな」

「はいっ」

「晶ちゃん、児童会長よろしくね」

「はい、今までありがとうございます」

「じゃな」

こうして私は無事、小学校を卒業いたしました。チャンチャン♪

めだかちゃんと善吉君とかと喋ってから帰りますた（・∀・）

―――――自宅ッ！

今、唐突に思ったことがあります。

『そういや中学どこだ?』

忘れてたよ。てへぺろ★

中学の事を考えてたら、おかーさんが来た。後ろから。  
今日デジャヴ多くね?

「んで? どうしたの?」

「実はね〜…」

んああ!! いいから言えよ!!

私、回りくどいの嫌いなんだよ!!!!?

その次の瞬間、母親の口から出た言葉に、私は固まった。





## 第九厨 小学生の次は……!?(後書き)

はい、事件とはこの事なのです!

「呆然としちゃったよ…」

ですね。私はどうでもいいですケド。

「おいおい」

では書く事も無いですし、次回予告っ!

「あい。次回予告ー!

私、九十九まさかの引っ越し!

私はどう言うのか!

次回!

「どうしよう… 部屋汚い。」

乞うご期待!

頑張るですよー

第十厨 どうしよう… 部屋汚い。(前書き)

はいつ、お久しぶりです？

「疑問形かよ」

いつ更新したか覚えてない…

「駄目くね？」

まあ、生きていればいいか。

「そうだけでも！」

ナイスツツコミ有難う御座いますっ！

「何？ 今日のテンションおかしいよ？ 大丈夫かよ」

えへへ、だってH i t数が5000超えてたんです

「えっ… サラッと且つシレッと言う事じゃねえよ！？」

え、えっと、とりあえずありがとうございます！」

ありがとうございます！

ではどうぞっ

第十厨 どうしよう… 部屋汚い。

引っ越し？ え、何？ 引っ越しなの？

今言う事かッ！ ええー、引っ越し…

「え、何それ今言う？」

あつ、言っちゃった。

「ごめんなさいね… 私も今朝知らされたばかりで…」

マジかよ。ん？ まさかあの親父ッ！

知らせなかったな！！？

朝知らせとけヤッ！ だが問題なのはそこじゃ無い…

どうしよう…

「部屋汚い…」

片付けめんどくせえ…。どうしよう、マジで。

「あ、それなんだけどね」

「あん？」

「もう引っ越し業者さんに頼んで、片付けてもらっちゃった」

「はあっ?!」

オイオイオイオイツ!!　そこは普通自分でやるだろ!

何頼んじやってんのっ!?　何考えてんのっ!?

何乙女の部屋を片付けさせちゃってんの!?

「まあ…。いいか。うん。」

いいけどね!　そこ!　いいのかよ!?　とか言わない!  
もういいの!　この人に常識を求めるのは諦めたのっ!!

「あら、ホント?」

「うん、ホントホント」

「ありがとう！　じゃあ明日出発だから♪」

「明日？　何だ今日じゃないの？」

「ええ、明日の七時にね」

なあーんだ、今からじゃないのか。

それならいいや。昔の動物園とかいきなり起こされて連れて行かれたし。

まだマシだ。うん。

今日はゆっくり『GHOST　TRICK』でもやるか。  
我ながらマニアック(?)。

-----

翌日　AM　7..00きっかり

「おはよう九十九。」

「はよう…」

ん？ 今の誰？って？ 今のは私のお父さんだよ。  
さりげ十話にて初登場！ ハッ、ざまあ！

「さて行こうか！」

「着替えさせろやコラ。」

今のはマジ切れかけたぞ。  
空気嫁ー、この野郎。

――

「おーけー。行こう」

「よーし、椎名も乗ったか？」

「ええ、乗ったわよ」

ちなみにおかーさんの名前は椎名だぜっ！  
変わった名前だね！ 私もだけど！

「つかイチャイチャしてねえでさっさとしろ。」

「「は〜い」」

べっ、別にリア充爆発しろとか思っ  
てないんだからねっ！  
畜生！ 泣きたいよ！！

-----

はよっす。

車途中で四時間半くらい寝ち  
ゃった九十九だよん。

引っ越し先に着いたんだZE★

「此処だよ、さあ入ろう！」

「でけえ… テラでけえ…」

マジでかい。どこにこんな資金が？

で、片付けやら何やらやって、  
終わった。  
書くのめんどくさくて。てへっ☆



引っ越して三年が経ちました。

三年間楽しくワイワイガヤガヤな中学生生活を送りました、まる

…作文かつ！ 早いね、時間経つの。もう三年。

もう原作の年… って、三年間あったことを話そうか。

文字数稼ぎに☆

一年目は入学して、友達出来て、数学で死んで… 美術部入ったと思ったら

運動部に助っ人で入ったり… 保健委員会入ったり。先輩いい人ばっかだったよ。

んで二年目。二年目は後輩が入学してきて若干ウザイ奴がいたり、なぜか軽音部が

『ボーカルやって下さい』って頼んできてやる事になったり… 相変わらず数学で死んだ。

美術の先生が『川那氏… げふんっ』とか言ったり、楽しかった。

でも、保険委員長やる派目になったよ…

最後に三年目。三年目はさらに後輩の後輩が入ってきて、先輩先輩可愛かった。

部活引退して、修学旅行は京都行って『青の祓魔師』思い出したり…

卒業式は出たくなかったが出たよ。褒めて？ ちなみに私三年間一回も休まなかったんだぜ！

なんだかんだ言って楽しかったよ。

形君には中学生の間に一回は会っておきたかったけど、どこに居るか分かんなかった（・ω・）

明日は箱庭学園の入学式だよ、確か。

うろ覚えなのだ！ キャラ崩壊乙！ まずキャラ固定されて無いけどね！

「あひゃひゃ！ どしたのさ九十九」

「んー？ 色々振り返ってたんだよ、色々ねー」

今は半袖の家に来てるんだ、相変わらずきゅぽきゅぽしてるよ。

意味不明だぜ自分。

「ふーん、そっか☆」

「じゃ、そろそろ帰るわ！ また明日な」

「うん、また明日〜♪」

明日は楽しめるかな♪

くふ、楽しみにしてるぜ？

黒神<sup>くろかみ</sup>めだか。

**第十厨 どうしよう… 部屋汚い。(後書き)**

はい… 精神がぶち壊れました、作者です。

「ふはは、今回は原作開始…」

違いますよ？

「ええ！？ まだ引っ張んの！？」

一応スキル紹介の間章を…

「えー、すぐだよな？ 今日のうちだよな？」

はい、午後になりますよ。多分。

「おーけー、じゃあ今回は次回予告は無しか」

はい。その代わりに九十九さんに紐無しバンジーを…

「やらんわ！！！！ まず死ぬだろ！！！！？」

チッ、まあいいですよ。その内やらせますから

「なんd…」

紐アリを。

「紐アリかよ！！！」

やっぱ無s…

「やめて。」

…では。お楽しみに！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6078z/>

---

厨二病少女物語 in,めだかボックス

2012年1月10日11時01分発行